「旬」の植物紹介（5 月編）

キリ　*Paulownia tomentosa* Steudel　（キリ科　キリ属）

中国、韓国、九州に自生地があり、割れや狂いが少ないことから、琴やタンスの材料として利用されるのはご存知のとおりである。

←キリの花
(2022.5.1 美咲町)

名前の由来は、一説には木材となる木の栽培技術である「台切り」を行って育てられるから、キリの名が生まれたといわれる。成長が早く娘が生まれるとキリを植え、結婚する際にはそれを伐採して作った箪笥に着物を詰めて嫁入り道具を持たせるということがよく言われた。

「一里ほど先から見えて桐の花」　　蒼虬（そうきゅう）

昔は女の子がまれると桐の苗を植えた。その子が大きくなるころには大木に育って嫁入り道具のタンスができる。句は遠くの桐の木に花が咲いて梢が薄紫に染まっているのだ。その花のもとにはきっと年頃の娘さんがいるに違いない。

2005.5.16　読売新聞「四季」：長谷川 櫂　訳

キリの種子→
植物雑学辞典から
転載

さて、昔花札で遊んだ記憶がある方もおられると思うが、1 月の花はマツ、2 月の花はウメと続き 12 月はキリとなっている。5 月に咲く花なのに何故キリ？。

実は、マツの花も 4 月から 5 月に咲くのだが･･･、1 月は年の初めだからピンとし、2 月は年の最後だからキリ。すなわちピンからキリと洒落ているのである。植物を観る感覚には「洒落」の心も必要なのかもしれない。

↑花札に描かれたキリ
（uchi-note から転載）

引用:岡山理科大学「植物雑学辞典」
ウィキペディア
https://uchi-note.com/hanafuda_12gatsu/